

H23 年度科学・技術関係予算概算要求 個別施策ヒアリング
【施策番号 24007：細胞動態システム科学基盤研究事業（文科省）】

- 1 日時：平成 22 年 9 月 16 日（木） 14:25～14:55
- 2 場所：中央合同庁舎 4 号館 12 階 共用 1208 特別会議室
- 3 聴取者：本席議員、奥村議員、相澤議員、青木議員
外部専門家 6 名（うち若手 2 名）
- 4 説明者：大阪大学特任教授 柳田敏雄
理研 発生・再生科学総合研究センター 笹井 芳樹 グループディレクター
理研 発生・再生科学総合研究センター 上田 泰己 プロジェクトリーダー
文部科学省 石井 康彦 ライフサイエンス課長

5 施策概要

生命の最小単位である「細胞」の理解を軸に、その下の階層である分子から上の階層の組織・全身レベルにわたる生命現象の統合的理解を目指し、「最先端計測〈はかる〉」・「高性能計算（シミュレーション）〈モデル〉」・「機能デザイン（設計・制御）〈つくる〉」の研究を循環的に機能させる新しいアプローチにより研究開発を推進する。さらに、再生医療の実現化等に貢献する多細胞・組織レベルでの操作技術の開発を幅広い研究者・大学等との連携によりネットワーク型で推進する。

6 質疑応答模様

【本席議員】

スパコンプロジェクトとの関係は。

【文科省】

両方に関わっている先生もいるが、内容は別。成果は互いに活用する。

【本席議員】

具体的に何がわかるのか。

【文科省】

1 分子計測、1 細胞試料分析等を活用して、細胞内の情報伝達に関わる分子や遺伝子発現等に関わる分子を捉える等の技術開発を行いたい。

【外部専門家】

総論では賛成。一方で、このプロジェクトを続ける人材がいるのか。

【文科省】

若手には、「定量生物学会」「細胞を作る会」などが立ちあがっており、また本施策には

物理や工学をバックグラウンドとして持っている人材がいる。求心力のある拠点作りを文科省としてもバックアップしていく。

【外部専門家】

世界における日本の位置付けについてはどうか。

【文科省】

世界的には、このように集約した組織として研究をしているところはない。まだまだ日本が十分に勝てる分野である。

【外部専門家】

細胞内動態をきちんと計測できるものを作って欲しい。

以上